

4月～5月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

48,207円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松印刷代)	17,715円
交通費(駐車場、燃料代、高速代)	15,260円
通信費(携帯電話代、折込代)	15,232円
支出計 16/4/1～16/5/31	48,207円
寄付 Yさん	6,000円

市政を考える 月刊武松

発行日
16/6/1

第159号

16100部発行

たけまつ ただし

頒布責任者：武松 忠(市議会議員)
武松政策研究会

また延期!?決められないホール

2019年度までの建設工事着手を急頭に置く?

芸術文化創造センター整備について5/23に議員説明会が開かれ、その後記者会見が開かれました。

■迷走の政策判断

2015/7 芸術文化創造センター入札不落

予定価格 72億9748万6560円(税込み)
入札価格 93億8844万円(税込み) 2回目
入札結果 不調(予定価格超過)
中堅ゼネコン1社による入札不調。

2015/10～11 市場調査 → 事業提案を軸に

①延期、②設計見直し、③分割工事、④事業提案の4つを選択肢として挙げ、方針を検討するため、民間事業者との対話を通じて、整備の可能性を調査する市場調査を実施。

2016/1～4 事業提案に向けた意見募集

A社(建設業)

大ホールと小ホールをはじめ利用目的に沿った施設計画で、想定事業費内での整備が可能である。

具体的には、大スタジオを取りやめ、小ホールは市民利用を想定した必要不可欠の機能やスペックに絞り、その他の諸室は部屋数を限定し利用目的に沿った機能での整備とすることを想定している。

B社(建設業)

ホール機能を優先させて、大スタジオと小ホールのあり方を見直し、市民利用主体の他の諸室では、これに見合ったグレードとすることで、想定事業費内で、基本計画のかなりの部分を整備する。

■事業提案でもリスク大 → 延期(議員説明会)

芸術文化創造センター整備についての考え

1 整備を取り巻く現状

(1) 建設費の高止まり

建設費が高止まっており、インフレスライド条項を適用すると、建設費の額は、かなり増加することとなる。

(2) 整備内容

現時点で整備すると基本計画の全てを実現するこ

とはできず、また、整備内容に対する建設費が割高になることから、基本計画を精査する必要がある。

(3) 国からの交付金

これから交付金がどのくらい交付されるのかは、流動的である。

(4) 市総合計画(後期基本計画)の策定

入札不調により事業が延期となり、現時点で整備に着手すると、他の大規模事業と整備時期が重なるため、芸術文化創造センター整備の時期や建設に充当する一般財源の額を後期基本計画策定作業の中で見極める必要がある。

2 整備についての考え

芸術文化創造センターは本市の芸術文化創造の拠点となることから、2019年度までの建設工事着手を急頭に置き、引き続き整備を推進する。

なお、建設費の高止まり等、この事業を取り巻く厳しい現状に鑑み、建設に充当する一般財源の額、整備内容、整備手法については再検討する。

今後の検討には、実施設計に至るこれまでの作業の成果や、事業提案に向けた意見募集を通じて得られた知見などをできる限り生かしつつ、市として望ましい整備のあり方を目指すというスタンスで臨む。

3 当面の対応

(1) 市民会館

当面は、必要最低限の維持・修繕を行い、予期せぬ不具合が生じた場合は、その対応をどうするのか、改めて検討する。

(2) 交付金

交付金は、引き続き、国県と調整を行う。

市長選挙後まで整備方針の公表を遅らせた結論が、延期とは情けない。

芸術文化創造機能を削減し、 優先順位をつけ早期の整備を!

次は小田原!?!を検証

熊本地震後、次は小田原ではとの週刊誌報道もあります。そこで少し整理してみます。

「次の震災は、小田原」との根拠とされるものは、次のように17世紀の地震を基にしたものです。

- ①1611年 東北で大震災(津波も発生)
- ②1619年 熊本で地震発生
- ③1633年 小田原で地震発生

17世紀前半の記録ではどうなっているか、次項で示します。

■17世紀前半の主な地震 出展：理科年表他

1605年2月3日 慶長地震 - M 7.9

関東から九州までの太平洋岸に津波、紀伊・阿波・土佐などで大きな被害。八丈島でも津波による死者数十人。死者1万～2万人と推定されるが、津波以外の被害はほとんどなかった。

1608年12月30日 仙台で地震 津波で50人死亡

1611年 9月27日 会津地震 - M6.9

若松城下とその付近で寺社・民家の被害が大きく死者3700人。

①1611年12月2日 慶長三陸地震 - M8.1

十勝・根室沖のM9クラスとする説がある。一方、東北地方太平洋側で繰り返し発生していると推定されるM9クラスの地震の候補ともされる。伊達領で大津波による死者1783人。

1614年11月26日 高田領大地震 - M7.7?

越後高田の地震とされていたもの。大地震の割に史料が少なく、震源については検討すべきことが多い。京都で家屋・社寺などが倒壊し、死者2、傷370という。京都付近の地震とする説がある。

1615年6月26日 相模・江戸で地震 - M6 超

江戸：家屋が倒壊し死傷多く、地割れを生じた。

1616年9月9日 宮城県沖地震 - M7.0

仙台城の石壁・櫓等破損。江戸で有感。津波も?

②1619年5月1日 肥後八代で地震 - M6.0

卯の刻と牛刻の2回の地震で旧八代城(麦島城)が倒壊。公私の家屋が破壊した。

1625年1月21日 広島で大震

城中の石垣・多門・堀などが崩壊した。島根で有感

1625年7月21日 熊本で地震 - M5～6

死者約50人。地震のため熊本城の火薬庫爆発、天守付近の石壁の一部が崩れた。城中の石垣にも被害。

1627年10月22日 松代地震 - M6.0

長野県松代：家屋倒壊80戸。死者があった。

1628年8月10日 江戸で大きな地震 - M6.0

江戸城の石垣所々崩れる。戸塚で道路破壊。

③1633年3月1日 寛永小田原地震 - M 7.1

小田原城の櫓・門堀・石壁ことごとく破壊。小田原で民家の倒壊多く死者150人。熱海に津波来襲。

1635年3月12日 江戸で地震 - M6.0前後

江戸：長屋の堀など破損。増上寺の石灯籠はほとんど倒れる。戸塚で有感。

■17世紀前半は地震が多発

小田原も地震に備えることは一番大切なことです。それは、行政はもとより、個人でも建物の耐震化、家具類の固定、避難経路の確認等を命を守る準備が第一です。

次の震災が小田原か?については、前項のとおり必ずしも言い切れるものではないと思います。

1605年の東海東南海南海地域の津波後の①東北地域の地震、京都付近の地震後の②熊本の地震。長野や江戸での地震後に③寛永小田原地震となっています。いずれにしても、18世紀前半の元禄地震、宝永地震までは地震の活動期といえ、現在が地震の活動期ということも間違いないでしょう。

今回調べていて、②の熊本地震では、同日に2度地震が起きているということがわかりました。平成28年度熊本地震でも、自宅に戻った後の2度目の地震で多くの方が亡くなったことが悔やまれます。

地震対策ですぐにできること

家具類の転倒防止対策を！

武松政策研究会からのお知らせ

6月の個人議会報告会および7月・8月の月刊武松発行配布は参院選の公示期間および都台により中止します。

5/3北條五代祭りにて →



HPは、「たけまつただし」で検索！ 月刊武松バックナンバー全て掲載しています。

twitter : @ttakemat

facebook : <https://www.facebook.com/tadashi.takematsu>

寄付は、ジャパンネットバンク 本店 普通口座 7941377 タケマツタダシ
さがみ信用金庫 国府津支店 普通口座 0051228 武松政策研究会 武松忠 まで